高齢者住宅新聞
KOREISHA JUTAKU SHIMBUN

'15.3.-4

W2-352

嚥下食の理解不十分

ニュートリー調べ

病院・福祉施設向けの栄養・嚥下補助食品を開発・販売するニュートリー（三重県四日市市）はソーシャルサービス（東京都千代田区）と共同で、20歳以上を対象に介護食、嚥下食に関する意識調査を実施。嚥下食に対する認知度が低いことが明らかとなった。

この調査はソーシャルビジネスの会員20歳以上の男女を対象に実施したもので、有効回答数は663件。

嚥下食の認知度について聞いたところ、「知っている」と回答したのが23%。嚥下食について正しく理解している人が4分の1以下と低かった。

また、「誤嚥性肺炎という病気を知っているか」という問いに対しては「知っている」が55%、「なんとなく聞いたことがある」が26%だった。

「誤嚥性肺炎の予防方法」については、「とろみをつけ流動性を高める」など正しい回答があげられた一方で、「食べ物を小さく刻む」などの咀嚼機能の低下した人への予防方法が数多くあげられ、嚥下機能の低下については正しく理解されていないことがわかった。さらに「介護の中で何が大変か」については「排便」「食事」「入浴」の順で回答率が高かった。